

海士町中央公民館

1 海士町の概要

人口	2,374 人	世帯数	1,052 世帯	高齢化率	39%
学校	保育所 1、小学校 2、中学校 1、高等学校 1				

海士町は、日本海の島根半島沖合約 60Km に浮かぶ隠岐諸島の中のひとつで、1 島 1 町の小さな島である。(面積 33.5 k m²)

対馬暖流の影響を受けた豊かな海や、大山隠岐国立公園や隠岐世界ジオパークに指定されるなど、独自の生態系が存在し、豊かな自然に恵まれている。

歴史的な背景としては、平城京跡から海士町の「干しアワビ」等が献上されていたことを示す木簡が発掘されるなど、古くから海産物の宝庫として御食つ國(みけつくに)に位置づけられていた。また、承久の乱(1221 年)に敗れた後鳥羽上皇がご配流されて一生を終えられた島として知られ、貴重な文化遺産・史跡や伝承が数多く残っている。

近年の海士町は、全国的にいわゆる「平成の大合併」が進む中、単独町制の道を選択し、地域の持つ潜在的な能力に賭けて、未来を切り開くための挑戦に取り組んでいる。

「海士町、『第四次 海士町総合振興計画 島の幸福論』
(株式会社データワークス 2009)、7-8」

2 海士町中央公民館の概要

(1) 地域の課題

「交流による町づくり」という町政の経営方針により、UI ターン者数が増加傾向にある。しかし、地元は地元、UI ターン者は UI ターン者で集まるといった傾向も見られ、地域におけるコミュニティが固定化されることもある。価値観の多様化により、貴重な歴史・文化に興味や関心がない住民の増加。また、UI ターン者が地区のことを知り、ふるさとの歴史・文化の継承に携ってきた人達の思いに触れる機会が少ないという実態もある。さらに、伝統や文化を伝えることができる方の高齢化が進み、郷土の誇りを伝えることができる人材の育成が課題となっている。

(2) 課題解決に向けた公民館の戦略

上記のような実態を踏まえ、海士町中央公民館では地域に目を向け、14 地区公民館と協力し、「ふるさと」を意識したプログラムに取り組んでいる。また、『全ての人々が自己実現できる学習活動の支援』や『人と人が優しく結び合える能力・力量の育成』、『ふるさとの歴史や文化・自然を愛し、継承できる人材の育成』を目指して、14 地区との連携や地区公民館活動促進のための支援や、以下のような取組を行っている。

- ふるさと再発見ツアー…地域の方を講師にした地区歩きや、隠岐ジオパークの学習
- 海士町ふるさと検定…子どもたちの提案から生まれた検定。年 1 回産業文化祭で実施
- 子どもダッシュ村…海士らしい体験をテーマにした世代間交流
- 小学校 4 年生ふるまい通学合宿…2 泊 3 日でもらい湯や自炊を体験する通学合宿。
- 中学校 2 年生通学合宿(普段の生活学校)
…職場体験を行いながら 6 泊 7 日の共同生活を行い、多様な価値観を体験的に学ぶ場。
- 人材育成… 民話の語り部講座や後鳥羽人人材バンクの整理

どの取組も、地元の方を積極的に巻き込み、参加者が海士の伝統や文化に触れ、多様な価値観を共有するとともに思いや技術を受け継いでいくためのきっかけとなるような内容になっている。

3 特色のある取組

職場体験・普段の生活学校

(1) 事業のねらい

- 職場体験を終え疲れた状況でも、炊事や洗濯などの日常の家事を行うことで、生活技術の習得を図るとともに、自分のことは自分で行う態度を養い、自立心を高める。
- 家族への感謝の気持ちと家族の一員としての自覚を高める。
- 集団生活を通して協力し合う大切さを学ぶ。

(2) 具体的な取組

『普段の生活学校』は中学校2年生を対象に、職場体験学習に合わせて行う通学合宿である。海士町には中学校を卒業すると島後や本土に進学し、島を離れ、ひとりで生活する子どもがいる。子どもたちは中学生のうちに社会人としての生活を体験し、6泊7日の共同生活を通して公共の場でのふるまい方を学ぶ。

合宿の内容は、魚のさばき方教室(ふるさと教育)、お世話になった職場の方を招待しての交流夕食があるが、それ以外は「社会人としての日常生活を体験する」というシンプルなものである。テレビや携帯機器がない中で、友達と協力して生活し、自らゆとりの時間を生み出していく力を育むために、あえて「日常」を意識したシンプルなプログラムになっている。また、島根大学の学生ボランティアにも、スタッフとして参加してもらい、生活指導や学習支援をしてもらうなど、地域の方を中心とした、多様な大人との関わりも大切にしている。

慣れない協同生活で、子どもたちは苦勞することもあるが、6泊7日を友達と協力しながら乗り切る。子どもたちの感想からは達成感や、将来への見通しが持てたことがうかがえる。



夕食づくりの様子



地域の方を招待しての交流夕食

(3) 成果と課題

ア 成果

- 多様な大人との関わりから子どもたちが自分の将来や、家庭での役割を考え、行動するきっかけとなっている。(生徒の感想の約80%に記述が見られる。)
- 子どもたちの成長だけでなく、保護者の方にとっても子どもとの関わりを考える期間となり、親の学びにもつながっている。(保護者の感想の約90%に記述が見られる。)

イ 課題

- 参加者に対する、学校や家庭と連携した事業後のフォローアップが課題である。

(4) 今後の方向性

本事業は10年以上の歴史もあり学校や地域に定着している。今後、担当者が変わってもねらいや思いを引き継ぎ、学校・家庭・地域、総がかり、多くの人の目と心で海士の子どもの成長に携わることができるよう支援を続けていく。